市民座談会内容（概要）

令和 8 年 11 月 1 日（日）10 時～11 時

懇談テーマ
　羽生市の将来都市像「誰もが幸せを感じる 住み続けたいまち羽生」
　を目指して
・高齢者の交通事情
（市長講話に続き、担当職員より上記懇談テーマについて説明しました。）

1　高齢者の交通事情について
【質問】
　市が河川や線路などの「線」によって分断されているように感じる。市の中心部を流れる葛西用水は、世界かんがい施設遺産に認定されるなど歴史的価値がある一方で、交通の利便性を妨げている部分もあると思われる。交通網について、改善できないか。
　また、あい・あいバスは運行時間が細かく設定されており、乗り遅れると大幅な時間のロスとなる。例えば、周回するのではなく、市の中心部（市役所、病院など）へ直接向かう便を、1 時間に 1 本程度運行することを検討できないか。
　移動販売については、実施日が木曜日に固定されているが、人が集まりにくい日時であるように見受けられる。例えば、百歳体操の開催日である火曜日に販売できないか。
【回答】
　市内の移動には、車がなければ難しい面があることは認識している。幹線道路や水路などを含む都市計画については、20 年から 30 年先を見据えた計画である。今あるものを生かしながら、世代を問わず移動しやすいまちづくりを推進していく。
　あい・あいバスについては、若い世代からも充実を求める意見をいただいているため、運行状況の見直しを図っていく。
　移動販売については、民間スーパーの協力を得て実施しているため、協議が必要となる。百歳体操やそのほかの交流の場を生かし、実施日時を設定できないか、担当部署に伝える。

２　送迎ボランティアとのりあいタクシーについて

【質問】

他市の事例を参考にした提案だが、地域の退職者による送迎ボランティアを実施してはどうか。

また、のりあいタクシーはPRが不足しているのではないか。現在は利用者に制限がないものの、高齢者が優先されるというイメージがあり、若い障がいのある方には利用に抵抗があるように感じる。

【回答】

地域の退職者による送迎ボランティアについては、人材を確保できれば実施したい。活動したいと思う方は多いと思われるが、日々の生活もあることから、実施には難しい面があることも理解している。市としても、ボランティアに頼るだけでなく、制度の整備や費用負担など、必要な支援を行っていきたい。

のりあいタクシーについては、令和7年度から全市民を対象としている。当初は妊婦の利用を想定していたが、小学生の利用もあり、のりあいタクシーの意義があると感じている。午前中は予約が混雑している一方、午後は比較的空いている傾向がある。今後も引き続きPRを行っていく。

３　景観を重視したまちづくりと水質について

【質問】

都市計画のビジョンについて、景観を重視したまちづくりを検討していただきたい。例えば、羽生駅西口に植樹し、並木道を整備してはどうか。

また、市の地下水について、水質が良いとは思えない。利根川の水を使用してはどうか。

【回答】

景観を重視したまちづくりについては、「歩きたくなるまち」をつくることが、市内の交通環境の改善にもつながると考えている。

市の水質については、第1浄水場が老朽化により使用できないため、今後は県水の購入を予定している。使用料金の値上げはあるが、利根川の水を100％使用することとなる。

４　地域ボランティア、学校跡地、外国籍の方の保険料、まちづくりについて

【質問】

先ほどの地域ボランティアについて、ボランティアの方が事故を起こした場

合の責任の所在を明確にしていただければ、地域の方も利用しやすく、賛成である。
　小学校の閉校後の利用方法については、地域で考えていく必要がある。
　外国籍の方の保険料の未払いを市民の税金で補填することの是非について、厳格な対応を求める。
　まちづくりについては、スマートタウンを目指す一方で、代々受け継いできた土地を手放すことは考えられない。羽生市は、利根川を中心としたまちづくりを目指すべきではないか。
【回答】
　閉校後の小学校については、旧村君小学校について、アミュード株式会社と売買契約を締結している。旧三田ケ谷小学校については、さまざまな民間事業者と協議を進めている。
　外国籍の方の保険料の未払いについては、製造業に従事している方が多く、企業に勤めている場合は社会保険料を支払っている一方、国民健康保険料の支払いが滞っているケースがある。対策として、出入国在留管理庁と連携しており、同庁からも対象者へ連絡していただいている。
　まちづくりについては、利根川を生かしたまちづくりを進めていきたい。

５　上下水道の整備について
【質問】
　中心部は整備されているが、上下水道の整備が十分ではない。整備を進めるにも、何十年も待たなければならない状況である。
【回答】
　市の上下水道は老朽化が進んでおり、更新を第一に考えている。過去に実施した市の事業に係る借入金を現在も返済しているため、これからの世代の将来負担を減らしていきたい。
　市の財政状況は厳しく、下水道の整備区域を拡大することは現実的ではない。今後は、移動に関する支援を充実させていきたい。